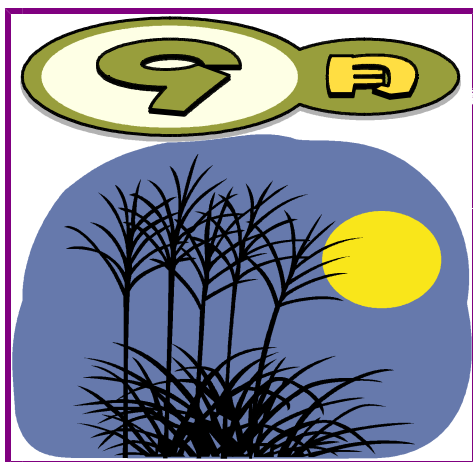


めぐみイエス・キリスト教会

2025年9月21日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第776号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.58 コリント人への手紙Ⅰ 15章 p. 926

【賛美Ⅱ】 新聖歌454「立ちあがれいざ」 p. 730

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書11章1節～4節 (p. 137上段)

【礼拝説教】 《主の祈り》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所

11:1 さて、イエスはある場所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えて下さい。」

11:2 そこでイエスは彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が聖なるものとされますように。御国が来ますように。』

11:3 私たちの日ごとの糧を、毎日お与え下さい。

11:4 私たちの罪をお赦し下さい。私たちも私たちに負い目のある者を皆赦します。私たちを試みにあわせないで下さい。』」

●ポイント1.ヨハネが弟子たちに教えた祈りとは？

※ヨハネの福音書1章35節～37節・40節「二人の弟子」(新約p.177)

1:35 その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともに立っていた。

1:36 そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。

1:37 二人の弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

1:40 ヨハネから聞いてイエスについて行った二人のうちの一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。

※マタイの福音書3章1節～2節「ユダヤの荒野にて」(新約p.3)

3:1 そのころバプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べ伝えて、

3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言った。

●ポイント2. 共観福音書における平行記事から

※マタイの福音書6章9節～13節「山上の垂訓から①」(新約p.10)

6:9 「ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

6:11 私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

6:12 私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。

6:13 私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。』」

●ポイント3. 「主の祈り」の教えから

※マタイの福音書6章31節～33節「山上の垂訓から②」(新約p.11)

6:33 「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

◎先週のメッセージ【マルタとマリア】

《この記事は、ルカにだけ記載されています。「ある村」とは、ベタニアのことです。しかし、共観福音書には、マルタとマリアがベテニアに住んでいたことと、主イエスによってよみがえった弟ラザロについて詳しく書かれているのは、ヨハネの福音書だけとなります。

聖書ではないのですが、バチカンの図書館にあります「一世紀の公的記録」という巻物には、主イエスが公生涯を始める前から、マルタとマリアとその弟ラザロとは、親しい友人関係であったことが書かれています。さて、マリアは、主の足もとに座って、主の言葉に聞き入っていました。おそらく、最初はマリアは、マルタと一緒に主イエス一行をもてなそうとして、様々な料理を用意していたに違いありません。

そうこうしているうちに、主が話し始めますと、マリアは手を止めて、主の御許に行ってしまったのです。その有様を見たマルタは心が落ち着かず、主イエスの所にやって来て言うのです。

「主よ。妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃって下さい。」

ここで、マルタは不満をぶちまけます。怒りの矛先がマリアではなく、主イエスに向けられたのです。すると主は、「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」と言われます。

「この時のマリアの態度は礼拝です。私たちが、最も優先しなければならないことは礼拝なのです。」と、尾山令仁先生は言われました。

それゆえマリアは、主の足下にひざまずき、熱心に御言葉に聞き入っていたのです。持てなしも大切ですが、一番大切なことは、主の御許にひざまずき、神の言葉に耳を傾け、聞き従うことだと、主イエスは、マルタとマリアを通して、私たちに教えておられるのです。》

◎お知らせ

※次回、9月28日第四主日礼拝は、通常通り、午前10時からです。